

## 「ほっと」活用のポイント

- ☑ 生徒の傾向を踏まえたソーシャル・スキル・トレーニングの実施
- ☑ 生徒指導とのつながりを明確にした日常の授業改善

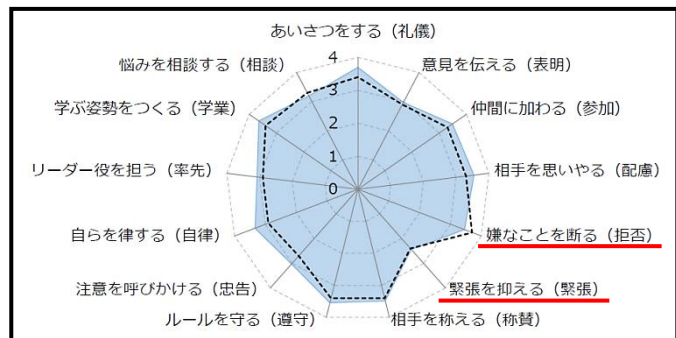
## 取組の実際

## 1 「ほっと」による傾向と分析

第1学年の生徒を対象に6月に「ほっと」を実施した。

## 【傾向と分析】

- ・「嫌なことを断る」の得点が低い  
→ 他者からの働きかけを断ることができず、自分の意見を言うことができない生徒の様子が見られる。
- ・「緊張を抑える」の得点が低い  
→ 人前で自分の考えを話すことに抵抗を感じている生徒の様子が見られる。



## 2 分析結果に基づいた取組

「嫌なことを断る」の得点が、全道平均と比較して低いことから、特別活動において、生徒が、上手な断り方を身に付けることができるよう、2人1組で、相手の依頼を断るロールプレイなどのソーシャル・スキル・トレーニングを行った。

また、「緊張を抑える」の得点が、他の項目と比較して低いことから、生徒が自分の考えを緊張せずに発表できるよう、教科等の授業において、自分の考えを学級の他者と交流したり、学級全体の場で発表したりする機会を充実させた。

## 3 取組の成果

- 特別活動において、生徒が、上手な断り方を身に付けることができるよう、ソーシャル・スキル・トレーニングを行ったことにより、12月に行われた「ほっと」では、女子生徒の「嫌なことを断る」の得点が0.1点上昇するとともに、自分が嫌だと思ったことを相手に話し、丁寧に断る様子が見られるようになるなど、嫌なことを断ることができる力を育成することにつながった。

- 教科等の授業において、自分の考えを学級の他者と交流したり、学級全体の場で発表したりする機会を充実させたことにより、12月に行われた「ほっと」では、「緊張を抑える」の得点が0.1点上昇するとともに、生徒が緊張せず学級全体の場で発表する様子が見られるようになるなど、緊張を抑えることができる生徒を育成することにつながった。

項目/実施月	6月実施	12月実施
拒否(女子)	3.4	3.5
緊張	2.4	2.5

【「ほっと」の結果の変化】

## 活用事例 7

# 主体的な生徒の活動や考えを伝え合う活動の充実

### 「ほっと」活用のポイント

- ☑ 主体的な生徒の活動の充実
- ☑ 授業において、自分の考えを伝える取組の充実

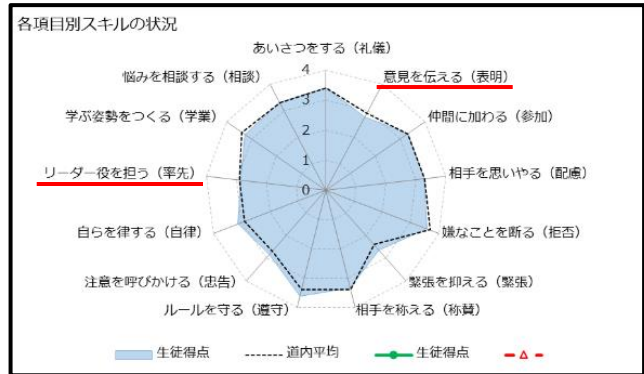
## 取組の実際

### 1 「ほっと」による傾向と分析

第1学年の生徒を対象に7月に「ほっと」を実施した。

#### 【傾向と分析】

- ・「リーダー役を担う」の得点が低い  
→先頭に立ち、周囲を引っ張ろうとする生徒が少ない。
- ・「意見を伝える」の得点が低い  
→全体発表や集団での対話の場において、自分の考えを述べることに消極的な生徒が多い。



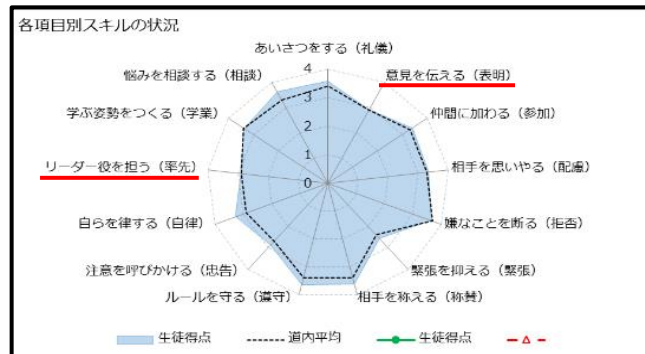
### 2 分析結果に基づいた取組

「リーダー役を担う」の得点が全道平均と比較して低いことから、生徒会活動において、生徒が全ての企画や運営を担ったり、学級活動において、学級の課題について議論させたりするなど、生徒の主体性、自主性を育む取組を推進した。

また、「意見を伝える」の得点が全道平均と比較して低いことから、授業において、生徒同士による対話の場面を意図的・計画的に位置付け、自分の考えを伝え合う活動を充実させた。

### 3 取組の成果

- 生徒が主体的に運営する生徒会活動の実施や学級活動における議論の場の充実により、11月に実施した「ほっと」では、「リーダー役を担う」が0.1点上昇するなど、生徒の主体性や自主性を育むことができた。
- 授業において、自分の考えを伝える取組を充実させたことにより、11月に実施した「ほっと」では、「意見を伝える」が0.2点上昇した。



## 「ほっと」活用のポイント

- ☑ 生徒に自信をもたせる授業づくり
- ☑ 交流活動を充実させた「リーダー役を担う」場面の設定による交流活動の充実

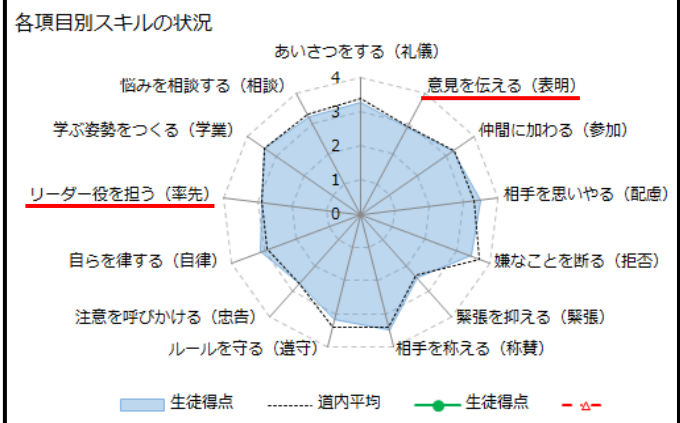
## 取組の実際

## 1 「ほっと」による傾向と分析

第1学年の生徒を対象に6月に「ほっと」を実施した。

## 【傾向と分析】

- ・「意見を伝える」の得点が低い  
→自分の意見に自信がもてず、**主体的に意見を伝えようとする生徒が少ない。**
- ・「リーダー役を担う」の得点が低い  
→第1学年の1学期ということもあり、集団の中での自分の役割を、どのように果たせばよいか明確になっておらず、**率先して集団を牽引する役割を担うことに消極的**な様子が見られる。



## 2 分析結果に基づいた取組

「意見を伝える」の得点が全道平均と比較し低く、「自らを律する」の得点が高いことから、特別活動及び道徳科を中心とした授業改善を全教員で推進し、**生徒のよさや可能性を引き出し、生徒に自信をもたせる指導**の充実を図った。

また、「リーダー役を担う」の得点が低いことから、**各教科等の授業において生徒間の交流活動を充実**させ、生徒が協働的に学習活動に取り組む学習指導を充実させた。

## 3 取組の成果

- 特別活動及び道徳科を中心として、生徒の自己肯定感を高める取組を行ったことにより、1月に実施した「ほっと」では、「意見を伝える」の得点が0.1点上昇したり、「あいさつをする」の得点が0.2点上昇したりするなど、生徒が**自信をもって他者と関わる力を育成**することができた。
- 生徒間の交流活動を充実させ、話し合いを進める役割を生徒に委ねたり、協働する場面を意図的に設定したりしたことにより、生徒が**「リーダー役を担い、集団を牽引する体験」**につなげることができた。1月に実施した「ほっと」でも「リーダー役を担う」の得点が0.1点上昇した。